

老年慢性期ケア演習

単位数：2単位（時間数：30時間）

開講年次及び学期：1年次後期

- 原 祥子：地域・老年看護学講座 教授
加藤 真紀：地域・老年看護学講座 准教授
内部 孝子：松江赤十字病院看護副部長（老人看護専門看護師）
立原 怜：島根県立中央病院看護師（老人看護専門看護師）
山根 裕子：松江医療センター看護師（老人看護専門看護師）

1. 科目の教育方針

慢性期治療・ケアの場において高齢者とその家族に生じる複雑かつ多様な健康問題を理解し、高齢者の可能性や強みを活かしながら解決に向けていく援助方法を学ぶとともに、必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整や倫理的な問題・葛藤についての倫理的調整、看護職者を含むケア提供者に対する相談の各役割を果たすことのできる基礎的能力を開発する。

2. 教育目標

- 1) 慢性期治療・ケアを受ける高齢者とその家族に生じる健康問題を理解し、高齢者とその家族への高度看護実践を展開する方法について説明できる。
- 2) 慢性疾患や障害をもつ高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践について説明できる。
- 3) 慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族に対して必要な医療・ケアが円滑に提供されるための調整方法について述べるができる。
- 4) 慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族における倫理的課題の解決に向けた倫理調整や、コンサルティの成長を導く相談のプロセスについて述べるができる。

3. 教育の方法、進め方、評価

【方法と進め方】

1～7回の授業は、講義と討論によって進める。

8～15回の授業は、老人看護専門看護師（GCNS）を含む事例検討会における GCNS の実践事例の検討に参画し、提示された事例の看護実践に対する意見を述べる。その後、慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族に対する高度な看護実践について、事例検討会での意見交換を踏まえた新たな気づきと自己の課題についてレポートする。

対面授業を基本とする。

【評価】

討論、事例検討会での取り組みと貢献度、事例検討会後のレポートにより総合的に評価する。

4. 使用テキスト、参考文献

テキストは指定しない。参考文献等を適宜提示する。

5. 教育内容

回	内 容	講師
1	慢性期にある高齢者とその家族への高度看護実践の展開方法とチームアプローチ	原
2	ICF の視点に基づく自立支援と目標指向的アプローチ	原
3	複雑な健康問題をもつ慢性疾患（生活習慣病等）の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	加藤
4	複雑な健康問題をもつ循環器疾患（慢性心不全等）の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	加藤
5	複雑な健康問題をもつ脳血管障害のある高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	内部
6	複雑な健康問題をもつ慢性腎臓病の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	立原
7	複雑な健康問題をもつ慢性呼吸器疾患の高齢者とその家族への Cure と Care を統合した看護実践	山根
8	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(1) 対応を必要とする問題・課題の明確化、高度看護実践とその分析	原 加藤
9		
10	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(2) 調整を必要とする状況の見極め、調整の方向性、調整内容と経過、結果および成果	原 加藤
11		
12	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(3) 倫理調整を必要とした問題・課題の明確化、看護実践とその分析	原 加藤
13		
14	慢性期の治療・ケアを受ける高齢者とその家族についての事例検討(4) 相談事例における対応を必要とした問題（背景・課題）の明確化、コンサルティの成長を導く技法と方略、結果および成果	原 加藤
15		

※1年次1月までに授業（15回）を終了する。